

会 議 の 名 称	第3回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和元年11月21日（木）午前9時30分から10時45分まで
開 催 場 所	あま市役所甚目寺庁舎 2階 第1会議室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）放課後子ども教室の実施内容について 3 その他
資 料	次第 七宝地区放課後子ども教室実施プログラム（資料1） 令和2年度あま市放課後子ども教室実施校について（資料2） 七宝地区放課後子ども教室有償ボランティア募集チラシ（資料3） 七宝地区放課後子ども教室活動記録（参考1） 七宝地区放課後子ども教室参加児童募集チラシ（参考2）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	1人
出 席 委 員	木全（克）委員、木全（孝）委員、井村委員、林委員、川原委員、 宮崎委員、大西委員、立松委員、鎌倉委員
欠 席 委 員	増田委員、溝口委員、辻委員、村上委員
事 務 局	木下福祉部長、樋口子育て支援課長、林主幹、井上係長、川村主査

井村委員長	開会 あいさつ
事務局	事務局紹介
福祉部長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 放課後子ども教室の実施内容について
事務局	七宝地区放課後子ども教室の実施内容を説明及び動画上映。 令和元年度あま市放課後子ども教室の概要説明。
宮崎委員	秋竹は人数が少ないタイプのモデル校として発足していますが、児童クラブに入っている子は放課後子ども教室に参加できないですね。その壁を取り除いてもらいたいと思いますが、どうでしょう。
事務局	宮崎委員がご欠席でした先回の研究会の時に児童クラブの話がありました。その中で児童クラブと子ども教室をまずは分けてというご意見と宮崎委員が今言われました登録が少ないのであれば、児童クラブの子でも参加できるようなかたちをとというご意見がございました。今そちらにつきましては考え中であります。事務局としましては、今年度10月開始になっておりますので、これが年度当初から開始すると登録者数が増えていくのではないかと少し期待している部分もあります。10月から開始して子どもたちが7名、8名という人数ではありますが、そこからお母さんの繋がりだとかそういった方たちの声を聞いて、私の子どもも入れてみようかなと。ただ宮崎委員が言われますように入れたいけれどクラブに入ってるから入れないというお声等も保護者の方から出てくるかもしれません。そういった事も4月の学校行事にまた学校の協力を得まして説明にあがり、保護者の方のご

	<p>意見をお聞きしながら、その辺を考えていこうかなと思って おります。</p>
井村委員長	<p>そうですね。</p>
大西委員	<p>子どもたちのお金が七宝地区は2,000円と書いてあり ます。美和、甚目寺と地区で違いますが、これはどういうこ とですか。</p>
事務局	<p>美和、甚目寺地区につきましては、あま市の合併前から実 施している回数と実施方法をそのまま引き続きしている状 況です。そのかたちをあま市版として統一するために、まず モデル校として七宝地区で今実施させていただいていると いう事になります。そこで実施回数や内容を12校全て統一 できた時に利用料等を変えていけたらと思っておりますの で、お願いいたします。</p>
大西委員	<p>甚目寺地区の給食日とあるのは月曜日から金曜日まで毎 日という事ですね。</p>
事務局	<p>給食がある日は全てです。</p>
大西委員	<p>5日間、スタッフは実際に同じ人が出てくるわけですか。</p>
事務局	<p>はい、甚目寺小学校、甚目寺南小学校につきましては各小 学校にスタッフがおりますので同じ方をお願いしています。</p>
大西委員	<p>もう一ついいですか。七宝小学校、宝小学校は来年からと いう事で4月からやろうとしてみえるんですか。</p>
事務局	<p>本日、七宝小学校、宝小学校をどうしていこうかというご 意見がいただけたらなと思っております。ここで例えば4月 から開始した方が良いのか。10月から開始した方が良いの か。ご意見をいただけたらなと思っております。まだ、いつ から開始するというのは決めてございませんので、研究会で のご意見をいただいた中で検討していきたいと思っております。</p>

<p>木全（孝）委員</p>	<p>来年度から本校の七宝小学校と宝小学校という事ですが、今年1年見させていただいて、やっぱりある程度準備期間があった方が良いのではと思いました。ですから伊福小学校と秋竹小学校と同じように準備期間を設けながら七宝小学校と宝小学校も10月から開始はどうかと思います。合併前の状況からずっと美和、甚目寺地区はこのようなかたちになっていますが、放課後子ども教室のあり方研究会の中で七宝地区がモデル校として今後やっていき、それを検証しながら最終的にあま市バージョンで統一してはどうかというように思っております。恐縮ですが、甚目寺小学校、甚目寺南小学校は最初の意見交換の中で宿題とか色々やって下さるといような事を聞いておりましたが、それは方針的に放課後子ども教室のあり方、地域の子は地域で育てるといことからすると、宿題を毎日見ていくというのが果たしてどうかという気は正直ありますので、そういう意味で七宝地区の伊福小学校、秋竹小学校を続けてモデル地区というものをもっと広めれたら良いかなと思っております。</p>
<p>林委員</p>	<p>私は今の意見に賛成で、やっぱり準備期間は大変だし最初にもともと七宝地区であま市版を作ろうという事で決めた以上は、そこは一番ポイントになるので時間をかけてあくまでも七宝地区が上手くいかないとい他への波及も難しいと思います。やっぱり今言われた利用料や回数等、その辺りは七宝地区で色々やった中でメリット、デメリットを検証しながらあま市としてどうしていくという事を決めていかないと。今までは合併前のかたちできているのでそれでよしとし、これから一つ一つ検討していく感じが良いのではないかと思います。</p>
<p>井村委員長</p>	<p>七宝地区の4小学校をモデル校として基礎をきちんとし、あとの他地区もそれに統一するという方向で。甚目寺の2校もそこにいずれは合わせた方が良いのではないかというふうには思います。</p>
<p>大西委員</p>	<p>そうですね。今木全（孝）委員、林委員、井村委員長も言われたとおり、やはり準備期間もありますのでね。今実際に</p>

	<p>伊福や秋竹小学校は10月からやられたんですね。だから少し準備期間を設けて、もしやるのであれば来年の10月からとか様子を見て。実際に七宝の学校はひつついているので、その辺も一度事務局の方で考えていただいて募集人員もありますので準備期間は必要だと私は思います。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。</p>
木全（克）副委員長	<p>伊福小学校で4回、秋竹小学校で3回終わっているわけです。この中で何か問題とかそういうのが、あったのかないか。年度初めが妥当かもしれないがやっぱりしっかり準備して今年の10月に始めたように、そのようなテンポが良いかなと思う。とりあえず、すでに終わった段階で何か問題があったのかというところ。上手くいっているという報告は大体受けましたが。</p>
事務局	<p>実際、ケガを含め事故等は今のところは全くございません。子ども教室は資格のないスタッフで子どもが好きな方たちですので、研究会の中でスタッフの研修が必要になってくるという川原委員のご意見等もいただきました。子どもをただ見てるといっただけでは、子ども教室で子どもたちとスタッフが楽しみながらやっていけないと思っています。そのためまた木全（克）副委員長に来年からも受けられるような研修がないかのご意見を伺っている状況ではあります。なかなかスタッフの方も研修に行けない、そういった事もございますので、少しでも日程を設けて参加していただきながら、現場にて経験を積んでいただいてやっていけたらなと思っております。今は教室の中で物を作る時にハサミを使うので怪我をしないよう声掛け等をしていただくという状況ではあります。今後は体育館になりますので活発な活動等もしてまいりますので、また注意して見ていただくところが変わってくるかと思っております。</p>
川原委員	<p>来年度以降どうしていこうかという事ですが、何回かこの会議の中で子どもたちの自主性を引き出す、自発的な取り組みがなされるような対応の仕方をしていったらどうかというお話がありました。ただ、それはスタッフのスキルが必要</p>

	<p>だし勉強も必要なのでいきなりは難しい。でもゆくゆくはというようなお話が何度かでていたと思いますが、これから長期計画を立てる時にスタッフの育成にしても段階的に例えば何年後にはこういった運営ができている事を目指す等、指針がないとスタッフの育成も行き当たりばったりになってしまいがちなので皆で共通の目標・指針というものをバチツとかかげられると良いかなと思います。どうでしょうか。</p>
宮崎委員	<p>私は、人付き合いは尊重と共存に結局、最終的に行き着くと思います。お互いを尊重しながら、それを踏まえて共存していくような場所づくり。失敗してもここでは大丈夫なんだよというチャレンジできる場所として、これが進んで行けばいいかなと私は思ってます。各学校の性質に合わせてやっていけばいいけれど、支援としてそれだけは守っていきこうねという事だけを決めた放課後子ども教室を広めていければ良いかなと私は思ってます。</p>
井村委員長	<p>ここだと色んな学年の子が一緒の場で色んな事をやる。それは社会のちょっとした縦なんですけど、そういう経験。やっぱり同学年じゃない経験をこういう所でやり、皆で同じ事、物を作る等すごくそれは良い事だと思います。色んな子どもたちが集まる中で、色んな可能性がまた出てくるのではないかなと思います。</p>
宮崎委員	<p>色んな子がいるのでね。</p>
井村委員長	<p>そんな感じはしますね。</p>
立松委員	<p>今、目標を段階的にとの意見が出されていますが、ちょうど今年度から本格的にコミュニティスクールが始まっています。今、色んな方々のお力で体験的なプログラムをやっていますが、できるだけ地域の方たちとの接点といいますか、そういった場づくりみたいなものもあると良いのかなとは感じています。なかなかコミュニティスクールもボランティアさんが少ない。学校もこれから色んな要望が出てくると思います。そんな中でこういう放課後子ども教室もコミュニティスクールの一環として地域で子どもを育てるところも少し</p>

	<p>絡めていけると良いのかなと思います。美和モデルをずっと長くやってきまして当時は前もお話しましたが児童クラブと子ども教室を一体化していこうみたいな動きが一時期ありました。でも、そんな中でそれぞれの役割が違うからやっぱり別々だねということで美和地区はずっと別々でやってきていると思いますが、ここへきて学校は地域でもう少し支えなければいけないという考え方が出てきてます。この子ども教室を何か取り立てていくよりかは、もっと先にはかつて全盛だった子ども会みたいなかたちが、子ども会っていう名前で復活するのが良いのかどうかは分かりませんが、ただゆくゆく本当に地域で学校じゃなくても公民館みたいな場所でも良いですし何かそういうかたちで子ども教室というか地域の子たちと地域の人たちが集まって体験的な事をやったりというふうな場づくりを今は意図的にやるんですが、ゆくゆくは何かそういうかたちが理想的なのかなとイメージ的には思います。</p>
宮崎委員	<p>少子化なんでね。今、子どもも少なくなっていくので地域が大事ですよ。</p>
立松委員	<p>そうなんです。もう一つは、今、ここ伊福小学校、秋竹小学校が10月からやって10回。来年の10月までにそうすると20回になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>学校との調整になってきますが、20回まではいけないかもしれないですが、今回の10回のペースでいくと20回弱ぐらいになるのではないかなと思っております。</p>
立松委員	<p>月2回のペースですもんね。</p>
事務局	<p>そのようにいけばなりますね。</p>
立松委員	<p>美和モデルでいきますと13回は大体月1回プラスアルファのペースでやってこられて、その13回ペースと20回ペースと、あとは地域の人たちのコーディネート。プログラムのマンネリ化ではないやり方や取り回しというんですかね。まだ3、4回しかやられてなくて、こういうふうにコー</p>

	<p>ディネートを今できてるので良いですが、この先やっぱりコーディネートがすごく大変な事になってきます。地域の資源というかお手伝いする方がいないと。木全（克）副委員長はよくご存じかと思えますけど、レクリエーションが毎回とかスポーツクラブさんも年間ずっとっていうわけにはいかないと思えますし、そういったところで地域性のあるプログラムをいかに取り入れていくか。例えば祭りが盛んな所だったら、伊福さんは太鼓という1つのプログラムを入れるのも、もしかしたらありなのかなと思ったりもしています。これはあくまでも個人的な意見です。20回が適当なのか13回が、月1回くらいの方が良くて、それをきっかけに何か地域のまたコミュニティ、例えば伊福小学校だったら地域コミュニティがありますので、この教室をきっかけに地域の方にも関わりを広げていく等、単体で子ども教室だけじゃない地域の繋がりみたいなものが広がっていくと良いのかなとちょっと思ったりしています。</p>
井村委員長	他に何か。
川原委員	きっと、これからだと思いますが、アンケートとか取られる予定は。
事務局	はい、取ります。
川原委員	それは子どもたちの。
事務局	子どもたちや保護者の方たちに取り、またアンケートができましたら見ていただき、ご意見をいただけたらなとは思っております。
川原委員	<p>スタッフの方にも取っていただくと良いかなと思います。本当にこの会自体、放課後子ども教室のあり方を検討する会だと思えば、やっぱりやってみて、それがどうだったか検証して、それで次に繋げていく事がすごく大事だと思うので、そのスタッフの方が何にやりがいを持って等、現場で感じる事等を汲み取っていけると良いかなと思います。</p>

事務局	はい、分かりました。
木全（克）副委員長	<p>すごい理想の意見がいっぱい出てるんですが、絞り込んで皆さんで同意していかなければならないのは、七宝をモデル地区として回数、利用料等、そういったものを統一の方向に持っていくのか持っていないのかっていうのだけ答えていただいて。それから地域で子育てとなると、できれば子ども教室が終わって迎えに来る時に、お母さんの今日は何をしたの一言聞いてくれればもっと良いし、子どもがこうやったよというかたちで繋がりがあればと思います。ありがとうございましたとその場で終わってしまうので、そういうところもスタッフの研修の中に入れて、スタッフの能力は限りなくて、これだけあれば良いというわけじゃないので。美和地区の子ども教室で防災の人たちが組立トイレ等を教えていただいた時に、時間が余ったので、それではと新聞紙で災害の時に利用できるスリッパを作ろう、少し時間があるから紙芝居をしようというかたちでパッとやっていただいた。そのような能力もやっぱりこれから養っていかないと駄目です。みんな外部から呼んできて、終わりではね。そうするとさっき出てきた七宝の踊りも各地域であったものがもう一回復活なんて部分もあちこち出てくるので、ここで切れるのではなく、それにまた何か繋げていけるように、地域というのはゴールインとして大変な事ですけども結び付けていくようにやっていけると良いかなと思います。ただ、あんまりいっぺんにいくと駄目なので、とにかく3月まで七宝地区はやってみて、七宝のモデルはこうでどういうふうにしていくかを考える。これだけ美和、甚目寺地区との開催に差があります。どうやったらクリアできるかっていうところの方向をきちんと据えていった方がいいと思います。</p>
林委員	<p>七宝地区の残っている2小学校の準備期間がありますので10月から始めていただければと思います。回数も伊福小学校や秋竹小学校と同じように10回ぐらいになるのではないかなと思います。そうすると伊福小学校と秋竹小学校は、おっしゃってるように5月から開始するので、もう少し今の10回から20回まではいかないという話なので、15回か13回になるか分かりませんが、その辺でとりあえずあ</p>

井村委員長	<p>ま市のモデルとして、とにかく優先でやりたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。また他にご意見がございましたら。</p>
川原委員	<p>甚目寺小学校と甚目寺南小学校が年間190日。そこでみんな宿題をやったりしているということなんですが、何となく日数とか宿題をやったりしているところを伺うと、どっちかというといふ児童クラブ的な役割を果たしているのかなという気がします。実際そんな感じですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
川原委員	<p>そうすると、今そこに通われているお子さんとその保護者の方は、これだけの日数とそういうものだと思って通われているんですね。</p>
事務局	<p>はい、そうです。</p>
川原委員	<p>難しいですね。それを取り壊すのは。</p>
事務局	<p>はい。</p>
宮崎委員	<p>そっちは子どもが多いですもんね。</p>
立松委員	<p>ちなみにその児童クラブは満席というか、児童クラブがいっぱいだからこっちにという方もみえますか。</p>
事務局	<p>募集はほぼ同じ時期にかけております。今言われましたように宿題等をやっている事もありますし、数回ではありますがプログラムのものもやっています。子ども教室は17時、児童クラブは19時ですね。その2時間の差がございまして。そして子ども教室の方はどなたでも登録していただける。児童クラブの方は基本保護者が就労して子どもの安全等を考えた方が児童クラブというかたちになります。ただ満員だからそっちへ行っているというわけではないと思っております。</p>

立松委員	仮にこれがなくなったとして、年間20日、10日ぐらいのものになった場合にそれでもいいわというふうになるのか。いや、そうじゃなくて毎日この金額でというふうに思ってみえる。
宮崎委員	それはアンケートしないと分からないと思います。実際の声も。
立松委員	そうですね。だから、どういうふうな感覚なのか。でも毎日来てない子もいるんですよね。
事務局	そうですね。今の子ども教室、月曜日から金曜日。毎日来ている子は非常に少ない状態です。20人、多い時は40人近く子ども教室に子どもたちが来ますが、それが毎日来る子というのは、ほぼいない状況です。先ほど言われましたけど、なくなって困るかどうかという話ですが、現在児童クラブは満所に近い状態です。もし子ども教室がなくなっていくということであれば、その子たちがクラブに入らないと困ってしまいますので、クラブの整備だとか、そういった事も必要になってきます。
宮崎委員	それこそ、また地域性で人数が多い所は毎日開催へもっていくか。そのメンバーさえ揃えば、その地区は良いかなとも思います。
井村委員長	でも、とりあえず七宝をまず何とか進めないか。
宮崎委員	とりあえずは、七宝地区の残り2校を10月に開催を目標として稼働するという事で方向的には良いのではないかなと思います。
林委員	やっぱり甚目寺の実施回数は問題がありますよね。
立松委員	同じような金額で毎日ですもんね。
林委員	金額も変えないといけないと思う。

宮崎委員	当然それはなると思いますよ。
林委員	やっていかないとね。190日もやって2,200円で済めば、そういう言い方は悪いですが。
宮崎委員	トータルで実施している学校があま市の中で2校だけだから、こうやって色々できたんだけど。全学区となると、それも無理だから、それはしょうがないですね。
林委員	あま市としてやっていくので、この辺をきちんと見直していかないと。
宮崎委員	そうですね。
立松委員	最初の頃に県内の事例集みたいなのをいただいて、しっかり読み込んではいないのですが、こういった県内の他の所の事例を少し研究といいますか、何かこう上手くいっているような所の事例を知ることができると、次のステップとしていいのではないかと思います。あま市モデルは、もちろん必要だとは思いますが上手くやっている所の事例も説明材料になると良いのかなとは思いますが、研究会という名前が付いてますので、知れると良いかなと思います。
川原委員	そうですね。そもそも七宝地区でないから七宝地区でやりましょうというだけじゃなくてあま市モデルというのを自分で良いものを作りましょうっていうね。
事務局	そうです。
井村委員長	途中で色んなのを取り入れても良いと思います。固定せずに色んないいものがあれば、どんどん取り入れるという方向でも良いと思います。
大西委員	そうですね。いずれにしても全体でまだやってない所、回数、利用料、そういうのも、やはり全体を一度やってみてからお話してやった方が良くと思う。だから児童クラブの方も

	巻き込んでいけば、ある程度の人数も集まると思います。
宮崎委員	これは少ない。
大西委員	今の我々の地域でも、1から6年生まで16名しかいません。家が建っている所は160件ぐらいありますが、その中の子どもさんが16名。そんな状態で小学校へ行っていますが、これから子ども教室をやるとなると。
宮崎委員	5時までいて、そこから児童クラブに通して下さいとか、それでも良いかなと思う。
大西委員	考えてやらないと、やっても5人や6人ではもったいないと思うんです。スタッフばかり10人いても困る。その辺のところも一応考えておかないといけない。
井村委員長	たくさん意見が出ました。本当に皆さんの貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。今まで伊福小学校と秋竹小学校の準備をしてきましたので、また七宝小学校と宝小学校の方を加味しながら。またお母さん達に色んなところで、また学校を通してこういう事をやりますという情報をどんどん入れていただいて進めてもらったら良いかなと思います。
大西委員	これが終わった後にスタッフさんとかは集まってお話ししていますか。
事務局	はい、打合せはさせていただいております。反省会ではないですけどもしております。
林委員	七宝4校をやると皆集まって反省等、色々出てくると思うんです。やっぱりある程度期間をやっていかないと、先が見えてこない面もあります。これを見て、あま市としてどうやってやっていこうかというのも、その先に回答が少しでも見えてくると思います。ぜひ七宝地区のあと残り2校をやって欲しい。よろしくお願いします。

宮崎委員	<p>新しいチラシですが、これの言葉がみんなで作って、からだを動かして遊ぼう！だと、それに熱意をはらってくるかというところの言葉は弱いかなと思います。チャレンジできる場所だぞという事をもっと母親が何々というような言葉に変えてもらった方が来やすいかなと思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。前回もありましたようにチラシが言葉ばかりでお母さん方に読んでもらえないのではないかという話もございました。そのためこのチラシもスタッフ募集のチラシを作ってくださいました、宮崎委員からご紹介いただきました秋竹学区にお住まいの小澤さんに作っていただきました。本当に先回も言いましたけど、この小澤さんに作っていただいたスタッフ募集チラシになって問合せも多くなりました。先ほどチラシの文言についてお話がありましたが、レイアウトを見ていただくため参考に字を入れさせていただきますので、今後文言については考えてまいります。</p>
川原委員	<p>よくこれだけのスタッフの方を集められたなと思います。すごく素晴らしい事だなと思います。今なかなかボランティアの方をお願いするのが難しいのに。ぜひこのスタッフの方を大事にしてやりたいなと感じています。</p>
井村委員長	<p>一緒に育ててもらおう、皆さんと一緒にね。</p>
事務局	<p>スタッフにもアンケートという話がありましたので、そのような事も考えていき、スタッフからの意見もきちんと取れる様なかたちで進めていこうと思います。</p>
井村委員長	<p>今参加している保護者のお母さんから、違うお母さんへこんな教室なんだよ、そういう伝わり方っていうのは、どうなんでしょうか。回数が少ないけれどありますか。</p>
事務局	<p>そうですね。あの子ども来たいって言ってたと参加児童からは聞いています。</p>
井村委員長	<p>ロコミみたいなね。</p>

事務局	ロコミみたいなかたちで学校に対しても子ども教室見に来て下さいというようなお願いもしていこうと思っております。
井村委員長	そうですね。じわじわとね。
事務局	広まっていったらなどは思っています。
大西委員	全体でスタッフは何人。美和や甚目寺を入れて。
事務局	40名登録していただいています。
宮崎委員	早速、宝小学校や七宝小学校の募集を。
事務局	はい、していきます。研究会の中でスタッフは4名体制という話をさせていただきましたが、今来ていただいているスタッフの方はご都合の良い時にはシフト制を取らず、すべて来ていただいております。今後、開催する小学校も増えてまいりますのでそういった方に新しくできた小学校に経験を積んで行っていただけたらなというように考えております。ただ、まだスタッフは足りない状態です。また心配しているのは美和の4校ですが、本当に設立当初からお手伝いしていただいているスタッフの方たちです。あま市のこの子ども教室だけではないと思いますが、ボランティアの方たちの高齢化が進んでおりますので、どんどん色々な方たちに登録していただけたらなと思っています。
宮崎委員	母親たちも地域の人も遊べて楽しめるような。
立松委員	コミュニティスクールで地域ボランティアの登録がありますが、そちらにも声掛けはされてましたか。
事務局	子ども教室はさせていただきました。ご協力いただいて了解を得て声は掛けさせてもらってます。
立松委員	社会福祉協議会のボランティアセンターはどうですか。

事務局	声は掛けさせていただきました。
立松委員	もう裾野を広げるしかないですね。もっとボランティアの裾野を広げて。若い世代にも。
宮崎委員	例えば中学校とかその子たちの時間が合えばなんですけど来てもらうとか。高校生とか。
事務局	例えば、曜日を変えて土曜日等の休日ということですか。
宮崎委員	例えばね。
事務局	ボランティア部とかもありますからね。
宮崎委員	そう。そういうのを活用したりも面白いかな。あと地域の企業の人たちとかも交えたりして、社会体験じゃないんだけど、そういう事も取り入れてくとより面白くなっていくんじゃないかな。またそこから知っていく人が増えていくと思う。
大西委員	企業の人も単発的にね。
立松委員	プログラムの1つに入れていくっていうのはありなんでしょうね。そしたら商工会さんとかに声掛けをすればお願いできる所はありますよね。あとは日常的にサポートするスタッフの確保がたぶん一番大変ですよ。
宮崎委員	そこです。すごい声掛けが大変でした。甚目寺の方に来ていただいた。
大西委員	私も2人頼んで秋竹に来てもらってる。
宮崎委員	なので、もっと地域の方に来ていただいて。
大西委員	私が声掛けたその人は、もともと宝の人。

宮崎委員	宝小学校が出来たら、そちらに移行してしまうかもしれない。
事務局	そうです。
川原委員	今、1時間の最低賃金が10月に上がった後930円程。1時間1,000円っていうのはある程度ボリュームさえあれば、それをお仕事として。
宮崎委員	そうなんです。そこを雇用にも結び付けていくと、より活性してくのではないかと思います。
立松委員	でも今、どこも採用で困っているくらい人不足ですよ。
川原委員	スタッフの方はこの時間以外の前後、準備とかお片付けの時間も支払対象ですか。
事務局	なります。3時から開始ですが、準備や後片付けがありますので2時半から5時15分までというのが基本の時間になっています。ミーティングの場合は30分前の2時から来ていただいたりしますので、そういった場合は2時から謝礼をお支払します。
川原委員	とはいえ、難しいですよ。時給1,000円だから行きますという人ではなくて、子どもたちにとっていう気持ちで来ていただきたいなと思います。よければいいというものではないと思います。
立松委員	そうですよね。月に2回の何時間ですから、それを収入の足しにしたいと思ってくる人ではないでしょうね。
宮崎委員	一応、面接はしますか。
事務局	します。
宮崎委員	その時に、やっぱり考え方とか、そういうのも重要になってくると思います。そこで、駄目だというような人を取り入

<p>川原委員</p>	<p>れてしまうと目標としている尊重共存という場所が作れないのでそういう所も踏まえて面接をきちんとしていただいて、お金じゃなく。</p> <p>分母があつてこそで、やっぱり分母が少ないと選べないですよ。</p>
<p>事務局</p>	<p>面接の時もそうですが、本当に来ていただいてどのように子どもたちに接していただけるかっていうところが大事になってくるかと思えます。本当に今はトラブルなく実施しております。また1月の時にぜひ現地の方を見ていただいてスタッフがどのような顔で子どもたちに接しているか、また子どもたちの表情を少し見ていただけたらなというようには思っております。</p>
<p>井村委員長</p>	<p>よろしいですか。では、この議事を終了してその他に入りたいと思います。何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ございません。</p>
<p>井村委員長</p>	<p>それでは、以上で本日の『あま市放課後子ども教室のあり方研究会』を閉会いたします。ありがとうございました。</p>